

# あなたの優しさで 世界中に笑顔と夢を!

地元の人々と植林

©(公財) オイスカ  
ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

ネパール (チトワン郡) で行われている識字クラス

©(公社) 日本ユネスコ協会連盟  
世界寺子屋運動 (ネパール寺子屋プロジェクト)

村人の自然資源の利用に関する聞き取り調査を行うスタッフ

©(特非) 日本国際ボランティアセンター (JVC)  
ラオス農村の村人の暮らしを守る活動

フィリピン キラン小学校の子供たちと植林

©(公財) オイスカ  
「子供の森」計画

大きく育つあなたのココロ

## ふれあいカンパ

コンゴ民主共和国の教室で学ぶ中央アフリカ難民と地元の子ども達

©(特非) 国連 UNHCR 協会  
難民の子供たちへの教育支援プロジェクト

明るく手を振るパルサ (Parsa) 校の子供たち

©(公財) 国際労働財団 (JILAF)  
児童労働撲滅のためのネパール非正規学校プロジェクト

検診を行う女性医師

©(公財) ジョイセフ  
アフガニスタンの妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト

猪狩尚史隊員とマラウイ・エヌクウェニ・ホレラ地区の人たち

©(一社) 協力隊を育てる会  
小さなハートプロジェクト

## 2020 ふれあいカンパ展開中!

電力総連は8月から10月末までを重点月間と位置づけ取り組んでいます

電力総連ふれあいプロジェクト

支援金の贈呈先、支援の内容など詳しくはホームページをご覧ください。

## 『ふれあいカンパ』から支援しているNGO団体

## 日本ユネスコ協会連盟

## 世界寺子屋運動(ネパール寺子屋プロジェクト)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、「UNESCO憲章」の理念を実践するために、第2次世界大戦後の1947年に設立された民間のNGOであり、字の読み書きのできない方々や学校に通うことのできない子どもたちへの教育支援として「世界寺子屋運動」を1989年から実施しています。

具体的な活動内容は、ネパール・ルンビニ周辺やカトマンズ近郊に、住民によって

運営される教育機関(寺子屋)を設置し、成人女性や子どもを対象とした教育支援を実施しています。識字クラスではネパール語の読み書きを学ぶだけでなく、公衆衛生や女性の権利などについても学んでいます。また、成人女性のための小学校レベルのクラスや幼稚園クラスも行っています。ご支援によって、2018年度には約3,000人が寺子屋で学ぶことができました。

## 公益財団法人オイスカ(OISCA)

## 「子供の森」計画／ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

「子供の森」計画は、次代の主役である子どもたちによる学校単位の森づくり運動です。子どもたち自身が学校や周辺地域に苗木を植えて実践活動を通じて、「自然を愛する心」を養いながら、地球緑化を進めることを目的としています。1991年に始まったこのプログラムには、2019年3月末現在36の国と地域5,180校が参加しています。2019年度に電力総連は、フィリピン北部ヌエバビスカヤ州の18校を中心に支援しました。

ヌエバビスカヤ州は1960年代から急速に進んだ森林伐採によりはげ山化が進行、乾季には干害、雨季には土壌流失を引き起こし、麓で農業を営む地域住民の生活を脅かしています。この状況を改善するため1993年にヌエバビスカヤ植林プロジェクトを立ち上げ、540ヘクタールを超える生物多様性豊かな森づくりに取り組んでいます。電力総連では、このプロジェクトを1995年から支援しており、金銭面の支援だけでなく、組合員を派遣して地元の方々と一緒に植林活動を行うことで、自意識の高揚等にも寄与しています。

## 国際労働財団(JILAF)

## 児童労働撲滅のためのネパール ブリッジスクールプロジェクト

公益財団法人国際労働財団(JILAF)は、自由で民主的な労働運動の発展を促進するため、1989年に連合によって設立されたNGOでありNPOです。1996年から展開している本プロジェクトは、ネパール労働組合会議(NTUC)と協働で、親が貧困等で児童労働に従事せざるを得ない子どもたちを対象に、3年間の基礎教育(無償)を提供するものです。

児童労働の主な原因には、貧困に加えて教育の重要性に対する親の理解不足もあります。本プロジェクトでは、児童労働従事者の親や地域の人々に教育の重要性

を訴える啓発活動も実施しており、その成果もありブリッジスクールへの入学希望者は増加しています。

現在9地域のブリッジスクールで450名の子供たちが学んでいます。これまでの卒業生約8,500名のうち8割以上が公立学校へ編入し、中には大学へ進学した生徒や、JILAFブリッジスクールの教師になった卒業生もいます。

電力総連は2008年度から本プロジェクト財源の一部を支援し、制服や文具の充実に役立っています。

## ジョイセフ

## アフガニスタンの妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト

途上国の貧しい農村地域では、近くに病院がなかったり、医師や助産師、また医薬品等が不足しているために、不衛生な自宅での出産を選ばざるを得ない女性がたくさんいます。そのため、緊急時の対応が手遅れになるなど、妊娠や出産が原因で世界では1日におよそ810人(年間約29万5千人)が命を落としています。ジョイセフは、女性が安心して出産できる環境づくりを目指し、アフリカやアジアの国々で支援活動を実施しています。

アフガニスタンの妊産婦死亡率は日本の128倍という割合です。同国では、女性が診療を受けるには女性の医療スタッフの存在が欠かせませんが、今なお復興の途にあり医療施設や医療従事者が不足しています。そこで、ジョイセフは、現地NGOと協力し、ナンガハール州ジャララバード市郊外の対象地域(人口3万7千人)で、女性医師をはじめ多数の女性スタッフを配置した母子保健クリニックを運営し、保健サービスの提供や啓発指導活動を通して、女性と母子の命と健康を守っています。

## 協力隊を育てる会

## 小さなハートプロジェクト

JICAが実施する青年海外協力隊は、約75ヶ国の開発途上国で現地の人々と共に暮らし、学校や病院、行政機関などに属して、技術指導を中心とした協力活動を行っています。

「小さなハートプロジェクト」は、隊員が協力活動以外の主に現地の人々の生活・学習環境改善のために自主的に行うプロジェクトを支援するものです。協力隊を育てる会は、本プロジェクトや活動現場の視察、企業・自治体への協力隊参加制度の設置や帰国後の採用の働きかけ等を通じ、協力隊事業の理解促進や隊員支援を行って

います。

電力総連は、1994年以降、学校校舎の補修、学校図書室の拡充、病院のトイレの修理、地域の共同井戸の設置など、68件のプロジェクトを支援してきました。2019年度はモザンビークの中等教育学校の図書館設置、マラウイの乳幼児健診会場の改修、ミャンマーの少年訓練校の浄水器設置に支援し、途上国の子どもたちの衛生環境や学習環境の改善に寄与しました。

## 国連UNHCR協会

## 難民の子どもたちへの教育支援プロジェクト

国連UNHCR協会は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の公式支援窓口として、広報・募金活動を行っています。UNHCRは1950年に設立された国連の難民支援機関で、1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。現在、135か国で約12,000人の職員が人道援助活動を行っています。

世界各地で7,000万人を超える人々が故郷を追われて避難を強いられるなかで、命を守る緊急支援に加え、未来をつかむ教育支援は、本当に重要なものになります。

電力総連は、UNHCRが実施する「難民の子どもたちへの教育支援プロジェクト」

を支援しています。長く厳しい避難生活を送る子どもたちにとって、教育は生きる希望です。

初等教育のみならず、中等・高等教育や職業訓練を受け、将来の自立した人生を一人ひとりがしっかりと手に入れることが、平和な世界を取り戻す大事な一歩になります。

皆様方の御支援は、教室の増設や修繕、文房具や制服、教材の支給、教員の養成など、教育環境を改善するためのさまざまな事業に役立てられています。

## 日本国際ボランティアセンター(JVC)

## ラオス農村の村人の暮らしを守る活動

日本国際ボランティアセンター(JVC)は、1980年のインドシナ難民の救援を機に設立され、現在は、アジア・アフリカ・中東などで支援活動を行っている国際協力NGOです。

ラオスでは、いまも人口の6割を超える人々が農村で暮らしています。近年、ダムや鉱山開発、ゴムやユーカリなどのプランテーションの設置が非常に勢いで進められ、村人の土地が何の補償もなく収用されたり、農薬や廃棄物の投棄などで環境が

破壊され、そのくらしが立ち行かなくなる例が頻発しています。JVCは住民や行政担当者、村人が農地や森林、河川を使う権利が法律で認められていることを研修を通じて知らせ、この権利を主張する際に必要となる土地利用図の作成などを支援しています。これらを通して、村人がこれらの自然資源を主体的に守り、かつ利用できるようになることで、安心して日々の暮らしを営めるように支援しています。